



X32 PRODUCER DIGITAL MIXER

40-Input, 25-Bus Rack-Mountable Digital Mixing Console with
16 Programmable Midas Preamps, 17 Motorized Faders,
32-Channel Audio Interface and iPad/iPhone Remote Control

JP

JP 安全にお使いいただくために

**注意**

感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル (1/4" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル) を使用してください。

**注意**

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

**注意**

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

**注意**

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。

**注意**

1. 取扱説明書を通してご覧ください。
2. 取扱説明書を大切に保管してください。
3. 警告に従ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 本機を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使用してください。
7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。
8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9. 二極式プラグおよびアースタイプ (三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついてます。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電気技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地 (アース) が確保されていることを確認して下さい。

12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるよう手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。



14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カート

を使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いたしません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

18. ブックケースなどのような、閉じたスペースには設置しないでください。

19. 本機の上に点火した蝋燭などの裸火を置かないでください。

20. 電池廃棄の際には、環境へのご配慮をお願いします。電池は、かならず電池回収場所に廃棄してください。

21. 本装置は 45℃ 以下の温帯気候でご使用ください。

法的放棄

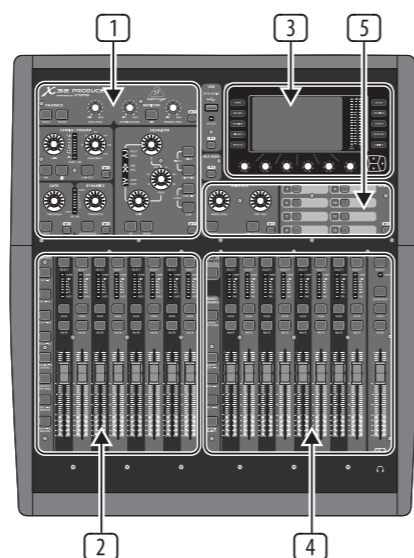
ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、Music Tribe は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。Midas、Klark Teknik、Lab Gruppen、Lake、Tannoy、Turbosound、TC Electronic、TC Helicon、Behringer、Bugera、Aston Microphones および Coolaudio は Music Tribe Global Brands Ltd. の商標または登録商標です。© Music Tribe Global Brands Ltd. 2023 無断転用禁止。

限定保証

適用される保証条件と Music Tribe の限定保証に関する概要については、オンライン上 community.musictribe.com/pages/support#warranty にて詳細をご確認ください。

X32 PRODUCER デジタルミキサー はじめに

はじめに



ミキサー操作の概要

X32 デジタル ミキシングコンソールのクイックスタートガイドへようこそ! このガイドでは、ミキサーの基本操作を説明し、即座に使用出来るようサポートします。ぜひこのガイドに目を通しながら、コンソールの他の画面や操作を色々試してみる事をお奨めします。コンソールのユーザーインターフェイスは非常に簡単にナビゲートおよび学ぶことができるように設計されています。behringer.com では英語のユーザーマニュアル PDF をダウンロードおよび閲覧することができます。

ユーザーインターフェイスの操作

X32 PRODUCER のユーザーインターフェイスは 5 つの主要なセクションに分かれています:

- ① チャンネルストリップおよびモニタリング
- ② インプットチャンネル
- ③ ディスプレイ
- ④ グループ / バス / メインチャンネル
- ⑤ 様々なアサイン

View ボタンアプローチ

コンソール上部パネルには小さな View ボタンをすぐに見つけることができるでしょう。View ボタンは押されたセクションに関連する情報をコンソールの大型カラーディスプレイ (メインディスプレイ) に切り替えて表示します。

例えばあなたがイコライザーを編集していて、EQ の周波数レスポンス曲線または対応する EQ パラメータ値をメインディスプレイで確認したい場合、EQ セクション内の

View ボタンを押して下さい。また、モニター信号がルーティングされている場所を確認する必要がある場合には、Monitor セクション View ボタンを押すと、メインディスプレイに詳細が表示されます。

View ボタンアプローチは常に該当する画面に直接行くことができるので、X32 コンソールのメニューのページをスクロールする必要がほとんどありません。

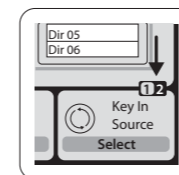
メモ: メインディスプレイの Setup/Global タブにて、View ボタンと Select ボタンの環境設定を調整可能です。

ユーティリティページ X32 PRODUCER のカスタマイズ

メインディスプレイの右側にある Utility ボタンを押してください。ボタンメニューは状況に応じて数多くの機能を表示します。例えば:

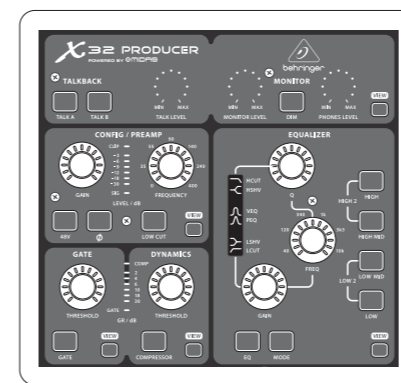
- コンソールチャンネルのイコライザーを調整する場合、Utility ボタンを押すことでイコライザー設定のコピー & ペースト、ロード / セーブが可能になります。
- チャンネルセレクトボタンを押しながら Utility ボタンを押すとチャンネル名などの設定画面が表示され、メインディスプレイと小さなチャンネルディスプレイの両方にチャンネル表示をカスタマイズ可能です。
- Routing ページでは Utility ボタンを押すと、ルーティングシナリオの異なるプリセットのロード / セーブが可能です。
- Scenes メニューで Utility ボタンを押すと、コンソールシーンのコピー、ロード、セーブおよび名前を設定できます。

特定項目の調整



メインディスプレイ上の個々のページのいくつかは下の 6 つのロータリープッシュエンコーダーによって多くの調整可能なパラメータが含まれています。

この場合ページ番号の表示は小さな 1/2 (図参照) です。レイヤーを切り替えるには Layer ▲/▼ ボタンを押します。



セクション 1: チャンネルストリップとモニター

X32 のチャンネルストリップは現在選択されているチャンネルの最も重要な処理を行うパラメータのコントロールです。チャンネルストリップのコントロールを調整するには目的のインプットまたはアウトプットチャンネルの Select ボタンを押します。

チャンネルストリップ (例えば、ローカットフィルター、ノイズゲート、EQ、コンプレッサーなど) のセクションではそれぞれの名称が付いたボタンでオン / オフ可能です。

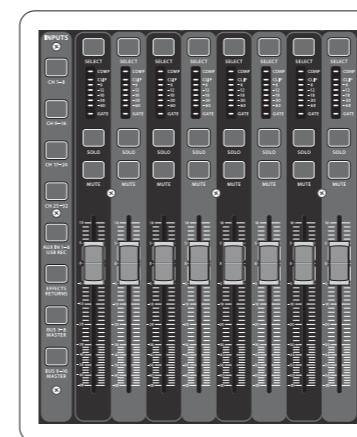
ボタンは効果が有効であることを示すために点灯し、バイパス時には暗くなります。

チャンネルストリップ内、アンバーの LED で囲まれたロータリーコントロールノブはパラメータの値を示します。ノブ自体のバックライトがオフになっている時には特定の制御 / パラメータが選択したチャンネルタイプには使用できない事を示しています。例えば、アウトプットバスが現在選択されている場合、ゲインノブおよび周りの LED リングは消灯しています。これはアウトプットバス上では入力ゲインを制御することがないためです。

チャンネルストリップは以下のサブセクションで構成されています:

- Config/Preamp
- Gate, Dynamics
- Equalizer
- Main Bus

これらの各サブセクションは現在選択されているチャンネルの処理ステップに対応した独自の View ボタンを持っています。これらが選択された場合、メインディスプレイにそのサブセクションに関連するすべてのパラメータを表示します。



セクション 2: インプットチャンネルバンク

各チャンネルの上には Select ボタンがあり、すべてのチャンネルに関連したパラメータ群 (チャンネルストリップ、メインディスプレイ) をダイレクトにコントロールできるようなユーザーインターフェイスとなっています。常に 1 つのチャンネル (Ch 1-32, Aux 1-8, FX Returns 1L-4R, Mix Bus 1-16, Main LR/C, Matrix 1-6 等) が選択されていることに気をつけてください。尚、DCA グループは複数アサインされたチャンネルをコントロールするのを選択できません。

モニター、トークバック

このセクションには 2 つの個別なコントロールがあります。1 つはコンソールのフロントにあるヘッドフォン出力、もう 1 つはリアパネルにあるモニター出力です。

セクションの View ボタンを押すとヘッドフォンアウトやモニターアウト用のインプットソースの選択などさまざまなモニター設定を編集できます。

また、このセクションには独立した Talkback ボタン (A, B) があります。Phones Level ノブセクションの View ボタンを押し Page Select 右を押すと、Talkback A や Talkback B の編集ページにアクセスすることができます。

コンソールのインプットチャンネルセクションは左側にあり、8 基個々のチャンネルストリップが用意されています。

- インプットチャンネル 1-8
- インプットチャンネル 9-16
- インプットチャンネル 17-24
- インプットチャンネル 25-32
- Aux インプット 1-6/USB 再生
- エフェクトリターン

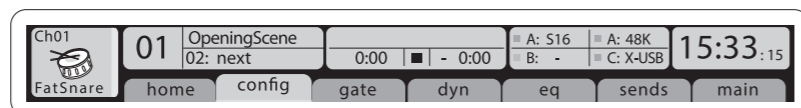
コンソール左側に位置する 6 つのレイヤーボタンは上記のそれぞれに相当するレイヤーへインプットチャンネルバンクを切り替えます。ボタンが点灯し、どのレイヤーが有効になっているかを知らせます。

X32 PRODUCER デジタルミキサー はじめに

はじめに

残り 2 つのレイヤー (BUS MASTER 1-8 および 9-16) は 16 Mix Bus Masters のレベルを調節し、DCA Group アサインに Bus Masters を含める時に便利です。

各フェーダーストリップはモーターを装備した 100 mm ストロークのレベルフェーダー、Mute ボタン、Solo ボタン、Gate インジケータ、インプットレベルメーター、コンプレッサーインジケータ、チャンネル Select ボタンを持っています。



セクション 3: メインディスプレイエリア

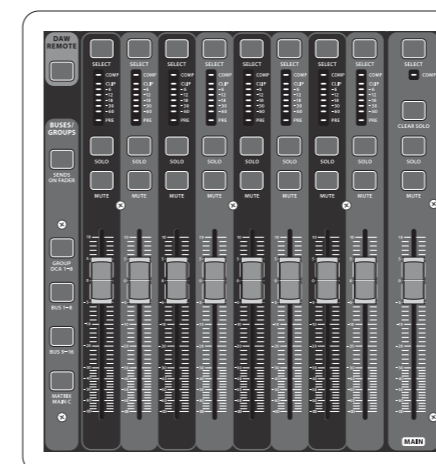
メインカラーディスプレイにはコンソールセクションの様々な情報を表示します。コンソールの View ボタンを押すことにより、異なったスクリーンに切り替わります。同様にディスプレイの両サイド 10 個のボタンを押すことによってもスクリーンを切り替えることができます。

メインディスプレイの左上側には現在選択されているチャンネル番号、ニックネーム、アイコンを表示します。次のブロックには現在のシーン番号と名前がアンバー色で表示され、次のシーンも同時に表示されます。中央のブロックにはレコーダーのステータスアイコンと経過時間、残時間および再生ファイル名が表示されます。次のブロックには 4 つの区切りで示される AES50 ポート A と B、カードスロット、オーディオ同期クロックソースとサンプルレート (右上) の各ステータスがあります。小さな緑の四角は正常に接続されていることを示しています。一番右側のブロックにはコンソールの時間が表示され、Setup/Config にて設定可能です。

任意スクリーンで作業中、ディスプレイ枠にある Page Select キーを押すと異なったスクリーンへと切り替えることができます。

パラメータを設定および編集するにはディスプレイ下 6 つのプッシュエンコーダーを使います。

- 連続的なコントロールもしくはリスト入力時には該当するノブを回して編集を行います。
- 下のフィールドにはトグル機能のある長方形ボタンスイッチがあります。該当するエンコーダーを押してオン / オフを行います。長方形ボタンがアンバーのときはオンもしくは有効に、ダークグレイの時にはオフもしくは無効になっています。



セクション 4: Group/Bus チャンネルバンク

このセクションの 8 基のチャンネルストリップは下記のレイヤーに分かれています。

- 8 DCA (デジタル制御アンプ) グループ
- Mix Bus マスター 1-8
- Mix Bus マスター 9-16

このセクションにはどのレイヤーやチャンネルバンクがアクティブになっていても機能するメイン LR アウトプットフェーダーがあります。

DCA グループのレイヤーを使用中には DCA グループはソロ / ミュートが可能です。DCA グループの名前、アイコン、色等を変更するにはメインディスプレイの Setup/DCA Groups ページで行います。

アイコンの色も Utility と Select ボタンを同時に押すことによって編集することができます。一度このスクリーンが開かれると、他のチャンネルも選択することができるのでレイアウトの編集を一度に行うことができます。

セクション 5: 様々なアサイン

• DCA グループアサイン

個別な 2 つのフェーダーグループ (左側: インプット、右側: アウトプット) によりバーチャル DCA Group へのチャンネルアサインおよびバスアサインはとても簡単な作業となります。コンソールの右側の各 DCA グループの Select ボタンを押したまま DCA グループにアサインしたいインプットチャンネルの Select ボタンを押すだけです。また DCA グループ Select 押すと、どのチャンネルがすでにアサインされたかをボタンが点灯して知らせます。

• カスタムアサインコントロール

コンソールの Assign セクションには A, B, C の 3 バンクを持つ 8 個のボタンで 24 種の機能を自由にカスタマイズすることができます。

カスタムアサインを行うには:

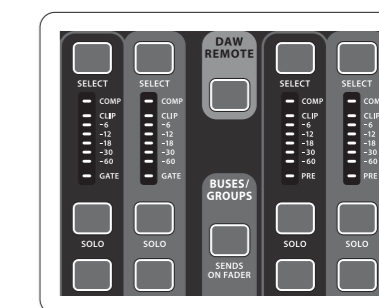
- Assign セクションの View ボタンを押します。
- 編集したいコントロールセット (A, B, C) を選択します。
- アサインしたい 1 から 8 までのコントロールを選択します。
- 機能をアサインもしくはコントロールしたいパラメータを選択します。

通常これは特定のチャンネルパラメータ (例: リードボーカリストのリバースオン / オフ等) に使用されます。

Jump-to-Page コントロールは特別なタイプの設定で、いかなるオーディオパラメータも変更しませんが特定のディスプレイページへジャンプさせるのに使われます。

“Sends on Faders” 機能

コンソールには 2 つのフェーダーセクション間に “Sends on Faders” 機能を持つとても便利なボタンがあります。



“Sends on Faders” 機能は任意の Mix Buses へ送るチャンネルレベル設定に役立ちます。Mix Buses 1-16 へのチャンネルアサインのみの機能で DCA グループやメインおよびマトリックスバスでは機能しません。“Sends on Faders” は殆どのライブサウンシーンにおいて使える機能です。

X32 PRODUCER デジタルミキサー はじめに

JP

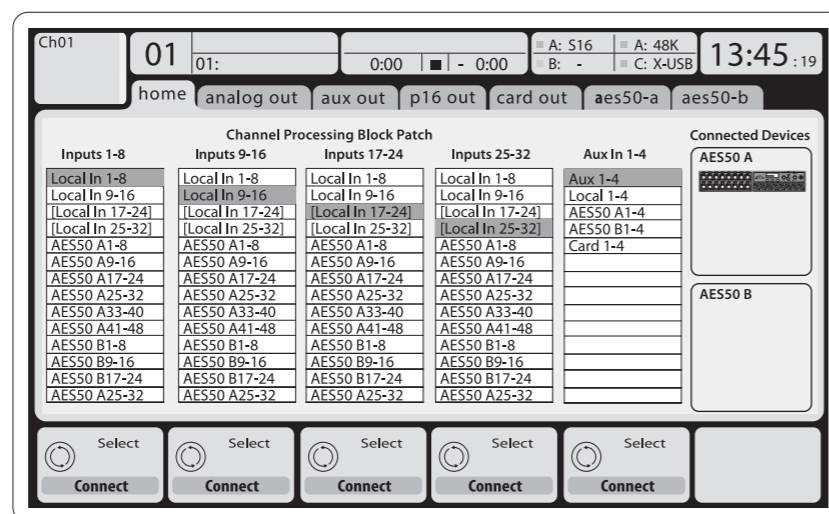
はじめに

特定のミュージシャンへのモニターミックスを準備するには

- ステージモニターに接続されているモニターバス (1-8, 9-16) を選択します。
- Sends on Faders ボタンを押して点灯させます。
- 6 つのインプットチャンネルレイヤーの 1 つを選択します。
- Sends on Faders が有効な間はインプットチャンネルセクションにあるすべてのフェーダー (コンソール左側) は選択されたミックスバス (モニター) のセンドレベルに一致します。

インプット信号がどこに送られたかを確認および編集するには

- 左側セクションのインプットチャンネルを選択します。
 - Sends on Faders ボタンを押して点灯させます。
 - バスチャンネルレイヤー 1-8 または 9-16 を選択します。
 - バスフェーダー (コンソール右側) には選択されたインプットチャンネル (コンソール右側) のセンドレベルが現れます。
- Sends on Faders 機能は両方法ともインプットまたはアウトプットチャンネルを選択することは X32 では特殊です。



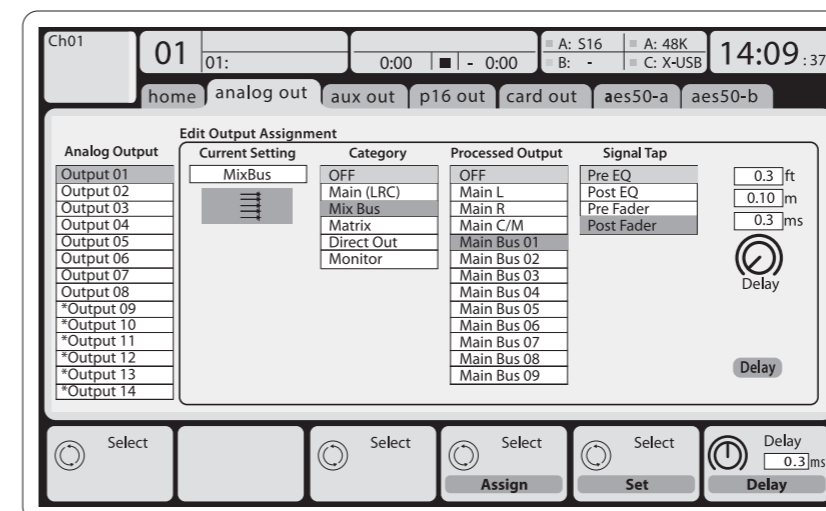
ルーティング I/O

リアパネルにはマイクプリアンプを装備した 16 基の XLR インプット、8 基の XLR アウトプット、6 基の TRS Aux センド / リターン、そして 2 基の AES50 ポートは 48 チャンネル分のインプットアウトプットを扱うことができます。また 32 チャンネル分のインプットアウトプットを扱うことのできる USB 2.0 またはコンピュータインターフェイス用のカードスロットを装備しています。

インプット信号はコンソール内蔵オーディオプロセッシングエンジンにより 8 シグナルブロックのうち 1 つのインプットソースとして扱われます。

注意: すべてのオーディオプロセッシングにパッチングされたすべてのシグナルブロックは自動的に対応するインプットチャンネルへ接続されます。

インプット 17-24 と 25-32 には括弧がついています。これはこの機器では物理的に使用できないことを示しています。これらをアサインしても信号がどこにも接続されませんが、これは X32 コンソール用に用意されているためです。

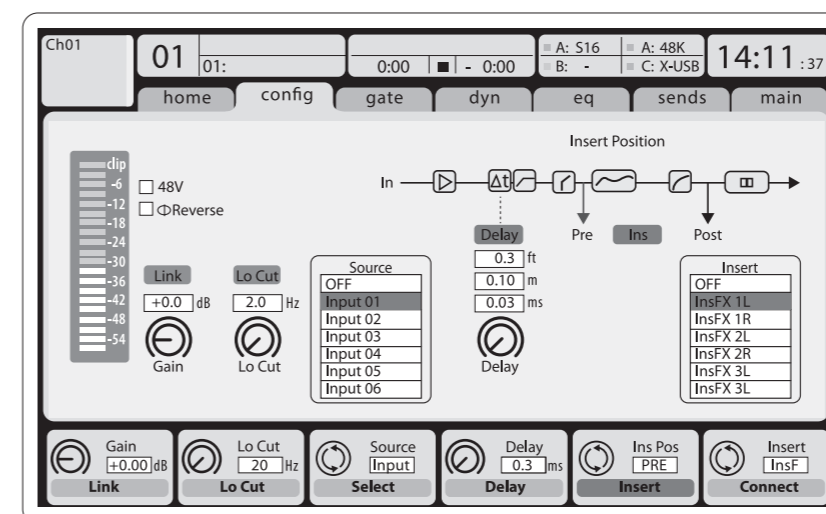


Output Signals は内部信号から下記のコネクタへ自由にアサイン可能です。

- 8 アナログ XLR アウトプット (スピーカー時間差補正用ディレイ機能付)
- 8 ヴァーチャルアウトプット (*) は AES50 のカード出力にルーティングされます
- 6 基の AUX センド 1/4" TRS 出力
- 16 チャンネルパーソナルモニター P16 用の Bus アウトプットコネクタ

信号は上記すべてもしくは部分的に 8 シグナルブロックとして下記へミラーリングすることができます。

- AES50 ポート A の 48 チャンネル
- AES50 ポート B の 48 チャンネル
- USB インターフェイスカードの 32 チャンネル



Input Channels 1-16 は初期設定ではインプット信号 1-16 になっていますが、ミックスバス / サブグループアウトプットを含む他のオーディオエンジンへパッチすることができます。チャンネルソースの変更は Preamp Config ページで行います。

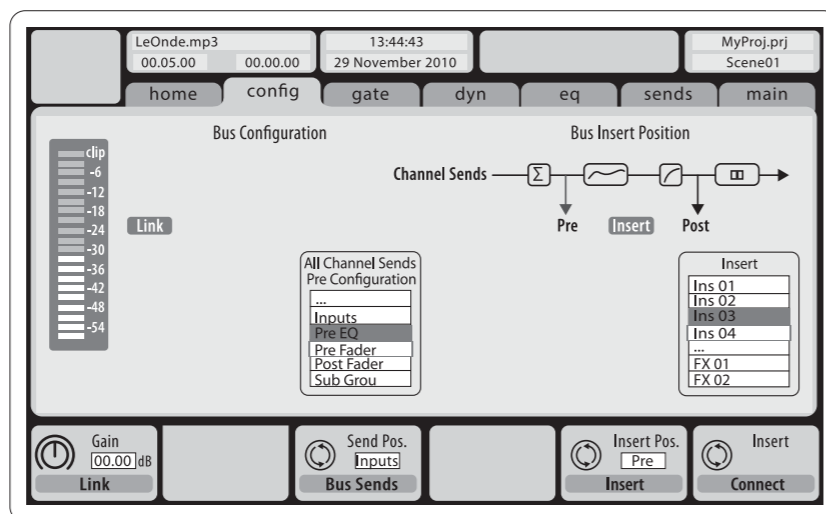
Input Channels 17-32 は初期設定では AES50 A インプット 1-16 になっています。これはポート A に S16 ステージボックスを接続して自動的にチャンネルを振り分けるためです。

Aux リターン チャンネル 1-8 は初期設定では 6 AUX インプット信号と 2 USB プレイバックアウトプットになっていますがコンソール内の利用可能な信号にもパッチ可能です。

FX Return Channels 1L-4R はサイドチェイン 4 基のステレオアウトプットシグナル FX 1-4 として扱われます。

JP X32 PRODUCER デジタルミキサー はじめに

はじめに



Mix Bus Channels 1-16 の設定はプリセットが可能で (Setup/Global ページ) 個々またはチャンネル毎に以下の設定が可能です。

- インサートポイント (ポストフェーダー、プリフェーダー切り替え)
- 6 バンドフルパラメトリック EQ
- コンプレッサー / エキスパンダー (ポスト EQ、プリ EQ 切り替え)
- 6 マトリックスへのバスセンド (プリ EQ、ポスト EQ、プリフェーダー、ポストフェーダー、サブグループ)
- Main LR バン
- Mono/Center レベル

Main Bus Channels LR/C はミックスバスから独立して常に利用可能です。このシグナルバスの設定は以下の通りです。

- インサートポイント (ポストフェーダー、プリフェーダー切り替え)
- 6 バンドフルパラメトリック EQ
- コンプレッサー / エキスパンダー (ポスト EQ、プリ EQ 切り替え)
- 6 マトリックスへのバスセンド (ポストフェーダー)

Matrix Channels 1-6 は MAIN LRC とミックスバス 1-16 信号へ独占して接続されます。設定は以下の通りです。

- インサートポイント (ポストフェーダー、プリフェーダー切り替え)
- 6 バンドフルパラメトリック EQ
- コンプレッサー / エキスパンダー (ポスト EQ、プリ EQ 切り替え)

エフェクトプロセッシング 1-8

X32 PRODUCER コンソールは 8 つのツールステレオエフェクトエンジンを搭載しています。

- FX 1-4 はサイドチェーンまたはインサートエフェクトとして設定することができます。FX 5-8 はチャンネルまたはバスのインサートポイントのみで使用することができます。
- サイドチェーン FX 1-4 リターンは常にインプットチャンネルの 6 番目のバンク (レイヤー) として制御することができます (FX リターン)。FX 1-4 のリターン信号は左右別々のフェーダーを持っていることに注意してください。
- FX のホーム画面では各 8FX スロットのパーチャラックや FX 1-4 の入力ソースやエフェクトの種類 / アルゴリズムなどを選択できます。
- FX 画面の FX 1-FX 8FX タブでは選択されたエフェクトプロセッサのパラメータの編集を行うことができます。

X32 PRODUCER iPad アプリ

専用 iPad 用アプリケーションによって、X32 PRODUCER コンソールの多くの機能がリモートコントロールできます。アプリのダウンロード、セットアップと操作についての詳細は X32 PRODUCER 製品ページからダウンロードできるユーザーズマニュアルに記載されています。

ユーザーインターフェイスは iPad のタッチスクリーンに最適化され、コンソールの最も重要なリモート機能に集中しています。アプリを使用するとオーディエンスとまったく同じミックスを聞きながら、ミュージシャンと対話中にステージからモニターミックスを調整したり、オーディエンス側から FOH ミックスを調整することができます。

X32 PRODUCER Windows/OS X/Linux アプリケーション

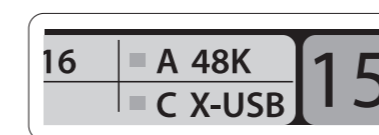
ホストコンピューターで編集可能なリモートエディターも提供され、Ethernet 接続で X32 PRODUCER の完璧なコントロールが可能となります。アプリのダウンロード、セットアップと操作の詳細は X32 PRODUCER の製品ページからダウンロードできるユーザーズマニュアルに記載されています。

スタート、シャットダウン及びアップデート

最初に X32 ミキサーの電源をオンしてからスピーカーを接続し、電源をオフしてからスピーカーを外すことを心がけてください。これはスタートアップ / シャットダウンプロセス中の予期しないノイズ発生から機器を守るためです。

セットアップ画面の一般設定ページでは、Safe Main Levels 機能があります。アクティブにすると、コンソールの起動時には自動的にメイン LRC レベルをミュートします。また、様々なシーンにおいて電源の影響を抑えることができます。

コンソールの同期とサンプルレートは Setup/Config ページで設定することができますが、いかなる変更もコンソールの再起動を要求しますのでご注意ください。メインディスプレイの上部にある赤い小さな四角の指示が表示されたら、同期設定の Setup/Config が適正となっているかどうかを確認してください。(セクション 3 を参照)



コンソールを他の誰かによって使用されたり、特定のルーティングの状態についてわからなくなった場合は、次の 2 つの方法で X32 の設定をデフォルト状態にリセットすることができます。

メモ: X32 PRODUCER リモートコミュニケーションは OSC (open sound control) に準じたプロトコルになっています。デベロッパーが独自のコントロールソフトウェアをデザインできるように behringer.com にて OSC プロトコルの詳細を公開しています。

- コンソールが起動し「X32」ロゴがスクリーンに現われたら、Scenes セクションの Undo ボタンを押したままにし、ホームスクリーンが現れてコンソールが完全に使用可能な状態になるまでボタンを離さないでください。コンソールは工場出荷時と同じ状態になります。また、起動後すぐに Scenes/Undo ボタンを押すことにより、コンソールが最後にオフにされたときの状態に戻すことができます。また、Setup/Config を押してから、「Initialize」を実行することによってコンソールをいつでも初期化することができます。

メモ: コンソールを初期化すると、現在表示されているデータまたは保存されたシーンは自動的に消去されません。すべてのシーンをクリアしたい場合は Setup/Config ページの Initialize All Show Data で行ってください。

ストア操作中に電源が切れたことによるエラーを防止するために、Setup/Global ページの「Safe Shutdown」機能を使用することをお勧めします。

注意: The X32 PRODUCER は Setup/Global ページの Lock Console を使うことにより、他の誰かによって操作されるのを防ぐことができます。この状態ではユーザーインターフェイスがどのような変更も受け付けず、ディスプレイには「X」マークを表示します。ディスプレイ右の HOME ボタンを 5 秒間押したままにすることで X32 PRODUCER をロック解除することができます。

X-USB エキスパンションカード

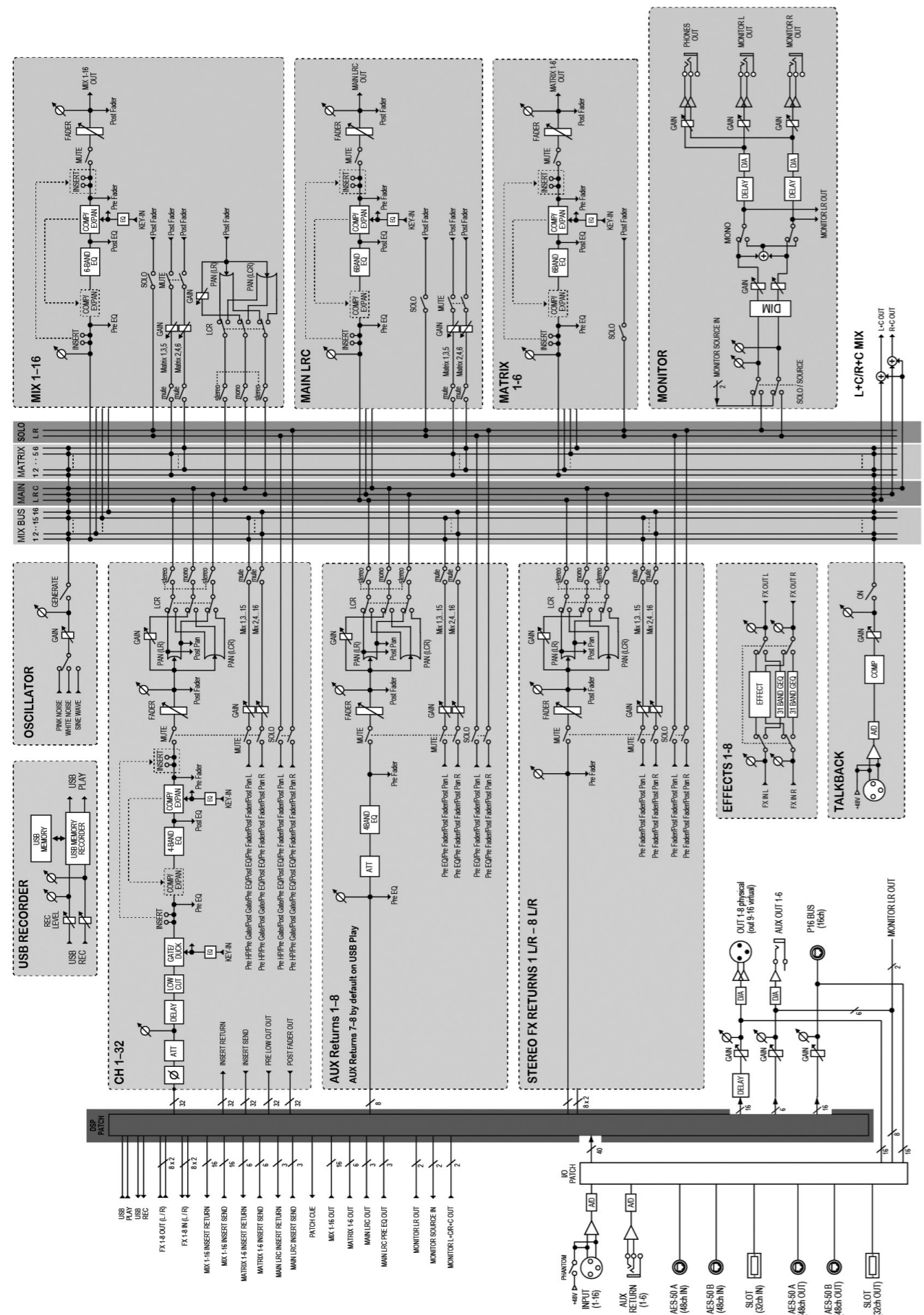
X-USB カードにより、接続されたコンピューターへ 32 チャンネルまでの伝送が可能です。コンピューターにミキサーを接続する前に behringer.com から X-USB ドライバとクイックスタートガイドをダウンロードしてください。

X32 PRODUCER のファームウェアは以下の手順によって簡単に更新することができます。

- USB ドライブのルート上に X32 の製品ページから新しいコンソールファームウェアをダウンロードします。
- コンソールの電源がオフになっている間に、トップパネルの USB コネクタに USB メモリを差し込みます。
- コンソールのスイッチを入れてください。起動時に X32 PRODUCER は完全自動でファームウェアのアップデートを実行します。これには通常の起動より 2、3 分長くなります。

注意: X32 PRODUCER キャビネットの最下部のファン開口部をふさがないようにください。特にハードケース等に X32 PRODUCER をマウントするときには空気の流れを確保するため、下には十分なスペースを空けてください。

X32 PRODUCER デジタルミキサー ブロック図



技術仕様

処理	
処理チャンネルの数	32入力チャンネル、8 aux チャンネル、8 FX リターンチャンネル、16 aux バス、6 マトリックス、メイン LRC
内部エフェクトエンジン、真のステレオ/モノラル	8/16
内部トータルリコールシーン (プリアンプとフェーダーを含む)	100
信号処理	
A / DD / A 変換 (Cirrus Logic A / D CS5368、D / A CS4385)	40 ビット浮動小数点
ローカル I/O レイテンシー (ローカル入力>コンソール処理*>ローカル出力)	0.8 ミリ秒
ネットワーク I/O 遅延 (ステージボックス入力>コンソール処理*>ステージボックス出力)	1.1 ミリ秒
コネクタ	
Midas によって設計された XLR 入力、プログラム可能なマイクプリアンプ	16
トークバックマイク入力、XLR	1つの外部 (内部マイクなし)
RCA 入力/出力	2/2
XLR 出力	8
モニタリング出力、1/4" バランス	2/2
補助入力/出力、1/4" TRS バランス	6/6
電話出力、1/4" TRS	1ステレオ (フロントアームレスト内)
AES50ポート、SuperMAC	2
拡張カードスロット	32チャンネルオーディオ入出力、さまざまな規格
P-16 コネクタ、Ultranet (電源なし)	1
MIDI 入力/出力	1/1
イーサネット、RJ45、背面パネル、リモコン用	1
USB タイプA、トップパネル、オーディオおよびデータのエキスポート/インポート用	1
マイク入力特性	
プリアンプの設計	マイダス
THD + ノイズ、20 dB ゲイン、0dBu 出力	<0.006% A 加重
入力インピーダンス XLR ジャック、アンバランス。//バル。	5 kΩ/10 kΩ
ノンクリップ最大入力レベル、XLR	+23 dBu
ファンタム電源、入力ごとに切り替え可能	48 V
等価入力ノイズレベル、XLR (入力短絡)	-128 dBu
CMRR、XLR、@ 20 dB ゲイン (標準)	> 70 dB
CMRR、XLR、@ 40dB ゲイン	> 80 dB

技術仕様

入出力特性	
周波数範囲、@ 48 kHz サンプルレート、0 dB~-1 dB	10 Hz~22 kHz
ダイナミックレンジ、アナログ入力からアナログ出力 (標準)	106 dB
A/D ダイナミックレンジ、プリアンプからコンバーター (標準)	109 dB
D/A ダイナミックレンジ、コンバーター、出力	108 dB
クロストーク除去@ 1 kHz、隣接チャンネル	100 dB
出力レベル、XLR、公称/最大	+4 dBu / +21 dBu
出力インピーダンス、XLR、アンバル。/バル。	75 Ω/75 Ω
入力インピーダンス TRS ジャック、アンバル。/バル。	20 kΩ/40 kΩ
ノンクリップ最大入力レベル、TRS	+16 dBu
公称出力レベル、TRS	+4 dBu / +16 dBu
出力インピーダンス、TRS、アンバル。/バル。	150 Ω/300 Ω
電話の出力インピーダンス/レベル	40 Ω / + 25 dBm (ステレオ)
残留ノイズレベル、XLR および TRS	-87 dBuA 加重
表示	
メインスクリーン	5", 800 x 480、262 k カラー-TFT
メインメーター	18 セグメント (クリップに対して -45 dB)
力	
スイッチモード電源	オートレンジ 100-240 V (50/60 Hz)
消費電力	70 W
物理的	
標準動作温度範囲	5°C - 40°C (41°F-104°F)
寸法	490 x 506 x 163 mm (19.3 x 19.9 x 6.4")
重量	11.4 kg (25.1 ポンド)

*挿入効果とライン遅延を除く、すべてのチャンネルとバスの処理を含む

その他の重要な情報

JP その他の重要な情報

1. ヒューズの格納部 / 電圧の選択:

ユニットをパワーソケットに接続する前に、各モデルに対応した正しい主電源を使用していることを確認してください。ユニットによっては、230 V と 120 V の 2 つの違うポジションを切り替えて使う、ヒューズの格納部を備えているものがあります。正しくない値のヒューズは、絶対に適切な値のヒューズに交換されている必要があります。

2. 故障: Music Tribe ディーラーがお客様のお近くにはないときは、musictribe.com の "Support" 内に列記されている、お客様の国の Music Tribe ディストリビューターにコンタクトすることができます。お客様の国がリストにない場合は、同じ musictribe.com の "Support" 内にある "Online Support" でお客様の問題が処理できないか、チェックしてみてください。あるいは、商品を返送する前に、musictribe.com で、オンラインの保証請求を要請してください。

3. 電源接続: 電源ソケットに電源コードを接続する前に、本製品に適切な電圧を使用していることをご確認ください。不具合が発生したヒューズは必ず電圧および電流、種類が同じヒューズに交換する必要があります。

We Hear You